

六ヶ所で歴史フォーラム

郷土の平安ロマン探る

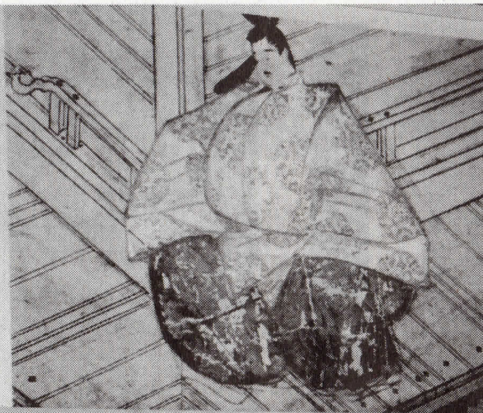
「六ヶ所村歴史フォーラム 2013」(村「尾駁の牧」歴史研究会主催)が8日、同村文化交流プラザ「スワニー」で開かれた。講師を務めた国際日本文化研究センターの倉本一宏教授は、平安時代に陸奥国と京都で馬の交易があったことなどを紹介。また国学院大学の飯沼清子教授は、村の表館遺跡から出土した装飾品「石帯」(せきたい)にちなみ、平安貴族にとって帯が貴重品だったことを報告した。

(長谷川開丈)

石巻市にも尾駁がある。分らないとしか答えられない」と述べた。

また、今年6月にユネスコの世界記憶遺産に登録された藤原道長の自筆日記「御堂関白記」(京都市の陽明文庫所蔵)に、陸奥国から京都に運ばれてきた馬の記載があることなどにも触れた。

フォーラムには約120人の聴衆が参加。倉本教授は講演で、平安時代の和歌に「尾駁の駒」という記述があり、同村の尾駁地区が古くは馬の産地だったものの、京都と交易していた可能性については「ゼロパーセントではないが百パーセントでもない。(宮城県)会場を埋めた聴衆は、郷土の「平安ロマン」に興味深げに耳を傾けていた。



倉本教授(国際日本文化研究センター)「尾駁の駒」に言及

京都との馬交易「ゼロでない」

東北地方と京都との馬の交易を記した藤原道長を紹介する倉本一宏教授

六ヶ所村から出土した「石帯」にちなみ、平安貴族の帯の重要性を紹介した飯沼清子教授

